

島根県隠岐島後地域

重点プロジェクト3) 低コスト再造林対策

コンテナ苗増産に向けた実証調査

～将来の島内自給率100%を目指して～

現状と課題

コンテナ苗の実生スギは、従来4月に播種後12ヶ月以上の育苗期間を経て出荷規格苗(苗長30cm以上かつ根元径3.5mm以上)に達する。しかし、一貫作業による植栽は一年を通して行われるため、一貫作業を進めていくためには複数の植栽時期に合わせた育苗が必要となる。

取組概要

平成30年に多時期播種を実証したところ4月、6月、9月であれば1年生で出荷規格苗に達することが確認できた。このため、令和元年度以降も引き続き多時期播種を実証した。(写真1)

さらに、温室内で10～11月プラグトレイに播種・冬期育苗・4月コンテナに移植する方法を実証した。(写真2)

取組の成果・効果

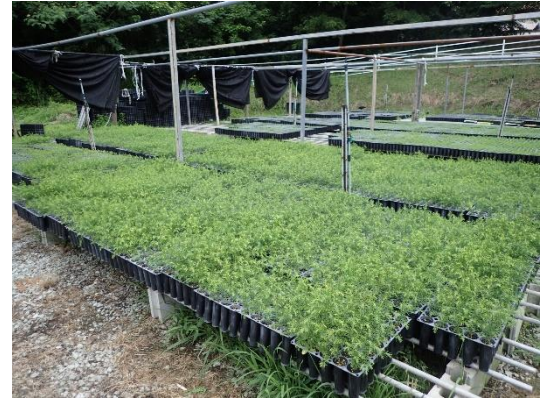
春播き、秋播きともに1年生で出荷規格苗に達したため、多時期播種により苗木出荷時期の分散は可能であり、一貫作業計画(伐採・植栽計画)に応じたコンテナ苗生産が可能となった。

取組が進んだ要因

通常播種する苗木に比べ1年のうちの労務を分散することができたため、作業負担の軽減に繋がっている。

これから取組む地域へのアドバイス

多時期播種の導入は、育苗上の問題が発生すれば対応策を検討しながら、実効性と効果を十分に検証していく必要がある。有効だと判きれば、出荷時期を最適化する手段として活用できる。



(写真1)

手前: 令和3年11月播種
奥: 令和4年5～6月播種



(写真2)

播種時期	育苗本数(本)	R4.10月 得苗調査(本)
R3. 11月	14,000	14,000
R4.5～6月	40,000	実証中
R4.9～11月	20,000	実証中

図1

【担当】

島根県隠岐支庁農林水産局林業部林業振興・普及第二課 上村高弘

【連絡先】

メール: uemura-takahiro@pref.shimane.lg.jp

電話: 08512-2-9649